

公立大学法人前橋工科大学 平成25年度年度計画

公立大学法人前橋工科大学中期目標	公立大学法人前橋工科大学中期計画	平成25年度年度計画										
<p>◇大学の設置と公立大学法人への移行</p> <p>本市では、社会情勢の変化、市民各層の要望等を踏まえて、昭和27年に開学した市立工業短期大学を改組し、平成9年4月に4年制大学として前橋工科大学を設置した。以後、大学は多くの学生を技術者として社会に送り出し、本市の産業振興や地域活性化に大きな役割を果たしてきた。</p> <p>また、本市にとっては、市内外から1,200人を超える学生が集うこの大学の存在そのものが、市内経済の振興や地域の活性化につながっていると考えられ、前橋工科大学はまさに本市の大きな財産となっている。</p> <p>一方、公立大学を取り巻く環境は、少子化の進行や社会の多様化等により大学間の競争が激しくなるなど、今後ますます厳しくなることが予想され、大学がこうした競争に勝ち残り、さらに発展するためには、教育、研究及び地域貢献といった点でより魅力ある大学になるとともに、効果的で効率的な大学運営を図る必要がある。</p> <p>そのため、平成25年4月に地方独立行政法人法に基づく「公立大学法人」へ移行し、組織や業務の公共性及び公益性を確保しながらも、より大学の自主性や自律性を高め、柔軟かつ効果的な大学運営を図ることとした。</p> <p>法人化を契機に、魅力ある大学づくりを進め、教育及び研究の発展はもちろん、前橋市の地域活性化と産業振興にもこれまで以上に貢献できる存在となることを目指す。</p> <p>そしてここに、公立大学法人前橋工科大学の「中期目標」を定め、法人はこの目標の実現に向けて取り組むこととする。</p>												
1	中期目標の期間											
	中期目標の期間は、平成25年4月1日から平成31年3月31日までの6年間とする。											
2	教育研究上の基本組織											
(1)	<p>学部及び学科</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">学部</th> <th style="width: 70%;">学科</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6" style="text-align: center; vertical-align: middle;">工学部</td> <td>社会環境工学科</td> </tr> <tr> <td>建築学科</td> </tr> <tr> <td>生命情報学科</td> </tr> <tr> <td>システム生体工学科</td> </tr> <tr> <td>生物工学科</td> </tr> <tr> <td>総合デザイン工学科</td> </tr> </tbody> </table>	学部	学科	工学部	社会環境工学科	建築学科	生命情報学科	システム生体工学科	生物工学科	総合デザイン工学科		
学部	学科											
工学部	社会環境工学科											
	建築学科											
	生命情報学科											
	システム生体工学科											
	生物工学科											
	総合デザイン工学科											
(2)	<p>大学院</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">研究科</th> <th style="width: 70%;">専攻</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5" style="text-align: center; vertical-align: middle;">工学研究科 (博士前期課程)</td> <td>建設工学専攻</td> </tr> <tr> <td>建築学専攻</td> </tr> <tr> <td>生命情報学専攻</td> </tr> <tr> <td>システム生体工学専攻</td> </tr> <tr> <td>生物工学専攻</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">工学研究科 (博士後期課程)</td> <td>環境・生命工学専攻</td> </tr> </tbody> </table>	研究科	専攻	工学研究科 (博士前期課程)	建設工学専攻	建築学専攻	生命情報学専攻	システム生体工学専攻	生物工学専攻	工学研究科 (博士後期課程)	環境・生命工学専攻	
研究科	専攻											
工学研究科 (博士前期課程)	建設工学専攻											
	建築学専攻											
	生命情報学専攻											
	システム生体工学専攻											
	生物工学専攻											
工学研究科 (博士後期課程)	環境・生命工学専攻											

公立大学法人前橋工科大学中期目標		公立大学法人前橋工科大学中期計画		平成25年度年度計画													
(3) その他機関	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>役割</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>図書・情報センター</td> <td>前橋工科大学附属図書館の運営管理及び大学の情報ネットワークの構築及び運営管理を行う。</td> </tr> <tr> <td>地域連携推進センター</td> <td>外部の諸機関等と連携して行う研究の推進に関する事務を行う。</td> </tr> <tr> <td>基礎教育センター</td> <td>大学の基礎教育科目を編成し、その実施に当たる。</td> </tr> <tr> <td>教職センター</td> <td>大学の教職課程科目を編成し、その実施に当たる。</td> </tr> <tr> <td>キャリアセンター</td> <td>学生に対し、実践的かつ体系的なキャリア形成のための教育及び支援を行う。</td> </tr> </tbody> </table>	名称	役割	図書・情報センター	前橋工科大学附属図書館の運営管理及び大学の情報ネットワークの構築及び運営管理を行う。	地域連携推進センター	外部の諸機関等と連携して行う研究の推進に関する事務を行う。	基礎教育センター	大学の基礎教育科目を編成し、その実施に当たる。	教職センター	大学の教職課程科目を編成し、その実施に当たる。	キャリアセンター	学生に対し、実践的かつ体系的なキャリア形成のための教育及び支援を行う。		前文 公立大学法人に移行した前橋工科大学は、前橋市長から指示された「公立大学法人前橋工科大学中期目標」に基づき、すべての教職員の叡智と力を集め、本学で学ぶ学生と地域社会の期待に応え、効率的で、だれにも分かりやすい運営につとめ、市民の信頼が得られるように努力する。		
	名称	役割															
	図書・情報センター	前橋工科大学附属図書館の運営管理及び大学の情報ネットワークの構築及び運営管理を行う。															
	地域連携推進センター	外部の諸機関等と連携して行う研究の推進に関する事務を行う。															
	基礎教育センター	大学の基礎教育科目を編成し、その実施に当たる。															
教職センター	大学の教職課程科目を編成し、その実施に当たる。																
キャリアセンター	学生に対し、実践的かつ体系的なキャリア形成のための教育及び支援を行う。																
3	大学の教育研究等の質の向上に関する目標	1	大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置	1	大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置												
(1)	教育に関する目標	(1)	教育に関する目標を達成するための措置	(1)	教育に関する目標を達成するための措置												
	ア 学部教育に関する目標	ア	学部教育に関する目標を達成するための措置	ア	学部教育に関する目標を達成するための措置												
	①工学の各分野に対する高い関心と基礎的な学力を持ち、将来国内外の社会において活躍したいと考える向上心のある学生を受け入れる。あわせて、社会人にも門戸を開き、働きながら学が意欲のある学生を積極的に受け入れる。		①-1 「入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)」に基づき、入学者選抜を行う。また、毎年入試結果について検証を行い、検証結果を公表するとともに必要な改善を行う。 ①-2 学生募集活動を強化するために広報委員会に専門部会を設けるとともに、オープンキャンパスや説明会の開催等を積極的に展開する。 ①-3 総合デザイン工学科では、社会人の受け入れのために夜間及び土曜日の開講を継続し、社会人募集を積極的に行う。また、就学者の実情に合わせて、昼の時間帯への授業時間の拡充を検討する。		a 「入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)」を大学のホームページ、学生募集要項等で引き続き公表するとともに、オープンキャンパスや高等学校教員対象の説明会などの機会もとらえ、積極的に周知する。 b 入試方法及び各試験分類別の結果を検証し、検証結果に基づき、継続、見直し、廃止等を進める。 a オープンキャンパス(2回)及び高等学校教員対象の説明会を引き続き実施する。 b 県内公立4大学による合同大学説明会を開催する。 c 各説明会においてアンケート調査を実施し、その結果を検証する。 d 広報委員会に専門部会を設け、入試広報計画を策定する。 a 総合デザイン工学科では、平日夜間2時限分及び土曜日7時限の授業コマを用意し、社会人がこれらの授業の受講だけでも卒業できるようにする。 b 県内企業等へのアンケートを実施し、社会人教育のニーズを調査する。 c 総合デザイン工学科での昼間時間帯への授業時間の拡大を平成26年度から実施すべく、教員体制を整備するとともに、履修モデルや新たに開講する授業科目等を具体的にする。 d 総合デザイン工学科の社会人選抜制度を継続するとともに、応募状況を検証する。												
			【担当者(計画遂行責任者)： 副学長(教育・企画担当)、学務課教務係、学務課学生係】														

公立大学法人前橋工科大学中期目標	公立大学法人前橋工科大学中期計画	平成25年度年度計画
<p>②学部の基礎教育においては、幅広い教養を養い、豊かな人間性を育む。</p>	<p>②-1 基礎教育科目においては、専門技術者として必要な工学基礎科目に加え、人文科学科目、社会科学科目及び語学科目を充実させて、幅広い人間力を育む教育を行なう。</p> <p>②-2 基礎教育科目の充実を効率的に進めるため、県内公立4大学等の連携に基づきそれぞれの長所を生かした単位互換を進める。</p> <p>【担当者(計画遂行責任者):副学長(教育・企画担当)、基礎教育センター、教務委員会、学務課教務係】</p>	<p>a 人文・社会科学科目18(総合デザイン工学科17)、外国語科目8(総合デザイン工学科5)、自然科学科目16(総合デザイン工学科10)を用意する。</p> <p>b 語学科目の充実について、検討する。</p> <p>a 平成25年度から新たに群馬県立県民健康科学大学との単位互換を始める。</p> <p>b 国立大学や県内公立大学との単位互換を充実させるため、課題を検討する。</p> <p>c 県内の私立大学等との単位互換について検討する。</p>
<p>③学部の専門教育においては、技術革新や価値観の多様化等の社会環境の変化に柔軟かつ的確に対応できる能力を培い、卒業後、市内産業分野をはじめとして社会の様々な分野で専門技術者として指導的役割を担うことができる人材を育成する。</p>	<p>③-1 学生に、専攻分野ごとの履修モデルを明示し、系統的な学習を進めやすくするとともに、カリキュラム構成は常に点検し、標準修業年限である4年ごとに見直しを行う。</p> <p>③-2 企業等との連携やインターンシップの充実を図り、学生の市内への就職を促進する。</p> <p>③-3 教員が学会等に積極的に参加し、最新の技術に関する知識を身につけ、講義等において学生に還元する。</p> <p>【担当者(計画遂行責任者):副学長(教育・企画担当)、学科長、キャリアセンター、学務課教務係】</p>	<p>a 養成する具体的な人材像ごとに作成した履修モデルを学生に明示し、学科のオリエンテーション等で学生に指導する。</p> <p>b 学生への授業評価アンケートの調査項目に、「関連する追加が望まれる授業科目」の項目も加えて、学生の要望を調査する。</p> <p>a 市内企業等でのインターンシップにより学生に市内企業での就業を経験させ、就職を促す。</p> <p>b 市内企業等との公募型共同研究に学生を参画させ、企業への就職につなげる。</p> <p>a 学会等への参加を奨励するとともに、常に最先端の研究についての情報収集を行う環境を整備する。</p> <p>b 授業評価アンケート等を踏まえ、授業内容を改善する。</p>
<p>④学生の効果的な学習活動を支援するため、全ての学科において入学時から卒業までのカリキュラムの明確な体系化を行い、教育の質の向上を図る。</p>	<p>④-1 学生に対して提示する教育目標及び講義、実習等の学習計画(シラバス)をより分かりやすいものとし、一人一人の学生が、授業や実習の内容、到達目標、成績評価基準等をしっかり把握して、効果的な学習ができるようにする。</p> <p>④-2 毎年度、授業評価アンケートを行い、その結果を踏まえて授業内容の改善を行い、教育の質を高める。</p> <p>【担当者(計画遂行責任者):副学長(教育・企画担当)、学科長、学務課教務係】</p>	<p>a 学部、学科の教育目標を再確認し、それを達成するカリキュラムの検討を行う。</p> <p>b 学科の教育目標及び開設する授業科目の授業目標をホームページや学生便覧で明示するとともに、学科オリエンテーションで学生に分かりやすく説明する。</p> <p>c すべての授業科目において学生の履修に役立つ分かりやすいシラバスを作成し、学生に明示する。</p> <p>a 授業評価アンケートを後期授業で実施する。</p> <p>b 教員は、授業評価アンケートの結果について、検証し、コメントを必ず提出する。</p>

公立大学法人前橋工科大学中期目標	公立大学法人前橋工科大学中期計画	平成25年度年度計画
<p>⑤学生の基礎的能力を強化することを目的に、初年次教育科目及び基礎教育科目の充実を行い、これを担う「基礎教育センター」の体制を強化する。</p>	<p>⑤-1 専門教育科目の理解を深めることに直結する数学及び物理については、より効果的な成果が得られるよう教育手法を常に検証する。</p> <p>⑤-2 学内の各種の委員会の構成員に基礎教育センターの教員を含めるなどして、本学の教育研究に基礎教育センターの意見を取り込める体制を作る。</p> <p>⑤-3 学生へのTOEIC受験を奨励し、英語力の向上を図る。</p> <p>【担当者(計画遂行責任者):副学長(教育・企画担当)、学務課教務係】</p>	<p>a 学科の教員配置数を見直し、物理科目の充実を図る。</p> <p>b 基礎教育センターにおいて、数学及び物理の教育手法について、検証を行う。</p> <p>a 総務委員会の構成員に基礎教育センター副センター長を、教務委員会の委員に基礎教育センターの教員を加える。</p> <p>a 英語授業科目の「英語C」の中で、TOEIC等の英語能力標準テストで高得点が得られるような具体的な指導をしていく。</p> <p>b 学科間のTOEIC取扱方針の統一化を図るため検討を行なう。</p>
<p>⑥学生の卒業後の進路を考慮し、キャリア支援教育を重視したカリキュラムを編成して実施するとともに、学生の就職に係る相談及び支援の体制を強化する。</p>	<p>⑥-1 キャリアセンターを中心とし、職業に対する意識の向上、コミュニケーション能力の開発、社会へ出ていくための実践力等の育成につながるキャリア支援プログラムを構築する。</p> <p>⑥-2 キャリアセンターは、キャリア支援プログラムが時代の変化に対応したものになるように教務委員会と協力し、また、学生の社会の中での実践活動を支えるため地域連携推進センターと協力をする。</p> <p>⑥-3 就職相談業務を専門業者に委託し、学生の就職活動を的確に支援できるようにする。</p> <p>⑥-4 本学卒業生の早期離職を防ぐため、卒業生の就業状況を把握、分析し、その結果を反映したキャリア支援教育を行う。</p> <p>⑥-5 求人側と学生の意識のズレから生じる雇用のミスマッチを防ぐため、インターンシップの実施を拡大する。また、これによる単位認定を推進する。</p> <p>【担当者(計画遂行責任者):キャリアセンター】</p>	<p>a キャリアセンターを設置し、よりよいキャリア支援プログラムとするため、他大学等の状況を調査する。</p> <p>a キャリア支援教育に関する研修を受講するなど、教員等のスキルアップを図る。</p> <p>b 地域連携推進センターの実施事業等の中で学生が積極的に活動できる事業を構築する。</p> <p>c キャリアセンターを中心に、地域社会において学生に求められている役割や機能を調査する。</p> <p>a 引き続き業務委託を行い、専門的な就職相談員を配置し、学生の就職活動を支援する。</p> <p>b 過去の就職状況などを検証し、必要な改善を行う。</p> <p>a 卒業生の就業状況を調査、分析し、より良いキャリア支援プログラムの検討を進めるための基礎資料を作成する。</p> <p>b 本学と全国的な状況を比較、検討し、その結果をキャリア支援教育に活用する。</p> <p>a キャリアセンターを中心に、全学で学生の就職活動を支援する。</p> <p>b 過去の就職状況などを検証し、カリキュラム等が社会のニーズを取り入れたものであるかを検証する。</p> <p>c キャリアセンターを中心に、各学科、教員個人等が保有する情報等も活用してインターンシップ受入企業の拡大を図る。</p> <p>d インターンシップの統一的な取組について検討を進める。</p>

公立大学法人前橋工科大学中期目標	公立大学法人前橋工科大学中期計画	平成25年度年度計画
<p>イ 大学院教育に関する目標</p> <p>① 独創的な発想力と、研究に対する実行力を持ち、専門分野を極めたいという意欲のある人材を受け入れる。</p>	<p>イ 大学院教育に関する目標を達成するための措置</p> <p>①-1 大学院についても、「入学受入方針(アドミッション・ポリシー)」を公表し、入学選抜を行う。また、入学説明会を実施するとともに、大学の内外に向けて募集活動を行う。</p> <p>①-2 大学院での研究テーマを大学院の進学希望者が早い段階から持つようにするため、学部教育の取組を推進する。</p> <p>【担当者(計画遂行責任者):副学長(研究・地域貢献担当)、学務課教務係、学務課学生係】</p>	<p>イ 大学院教育に関する目標を達成するための措置</p> <p>a 「入学受入方針(アドミッション・ポリシー)」をホームページ、学生募集要項等で引き続き公表するとともに、卒業研究や入学説明会などの機会もとらえ、積極的に周知する。</p> <p>b 大学院単独の案内冊子の作成を検討する。</p> <p>c 大学院受験者層を対象とした入学説明会を実施する。</p> <p>d 大学院の入学説明会等においてアンケート調査を実施し、その結果を検証する。</p> <p>a 学部教育において、大学院との連携を意識した指導を実施する。</p> <p>b 博士前期課程の学生の学修を支援するシステムについて検討する。</p> <p>c 研究指導教員は、個別指導などを通じ、常に学生の考えを把握するように努める。</p>
<p>② 博士前期課程では、学部教育で培われた教養と専門の基礎能力を、講義や演習等により向上させるとともに、研究に関する能力を養成し、高い専門性を身に付けた高度専門技術者及び研究者を育てる。</p>	<p>②-1 博士前期課程については、専攻分野ごとの履修モデルと学位の授与基準を明示し、系統的な学習・研究ができるようにする。</p> <p>②-2 博士前期課程の学生に早期の段階から研究の目標及び方向性を見つける指導を研究指導教員を中心に実施する。</p> <p>②-3 博士前期課程の学生をティーチング・アシスタントとして教育補助業務を担当させ、指導力を養成するとともに、修士論文の作成に発展させる。</p> <p>【担当者(計画遂行責任者):副学長(研究・地域貢献担当)、専攻主任、学務課教務係】</p>	<p>a 養成する具体的な人材像ごとに作成した履修モデルを学生に明示する。</p> <p>b 学位の授与基準や授与手続をホームページ等で公表する。</p> <p>a 各専攻ごとの「教育課程の編成方針(カリキュラム・ポリシー)」及び「卒業認定・学位授与に関する方針(ディプロマ・ポリシー)」をホームページ等で公表する。</p> <p>a 引き続き、博士前期課程の学生によるティーチング・アシスタント制度を行い、ティーチング・アシスタントとなった学生自身の研究に生かすよう指導する。</p>
<p>③ 博士後期課程では、専門の能力を一層深めるとともに、先駆的・先端的な技術課題に率先して取り組む能力を高め、豊かな創造性と主体性を備えた高度専門技術者及び研究者を育てる。</p>	<p>③-1 博士後期課程については、分野横断型工学研究シンポジウムでの発表等を通して、特別研究の発展を図るとともに、国内外の先駆的・先端的な研究に参画させることにより、研究能力を高め、創造力を養う。</p> <p>③-2 博士後期課程にティーチング・アシスタント及びリサーチ・アシスタントの制度を導入することにより、指導力を養成するとともに、研究能力を向上させる。</p> <p>③-3 博士後期課程の学生を国内外の先駆的・先端的な研究に参画させることにより、研究能力を高め、創造力を養う。</p> <p>【担当者(計画遂行責任者):副学長(研究・地域貢献担当)、学務課教務係】</p>	<p>a 分野横断型工学研究シンポジウムを実施し、その成果を検証する。</p> <p>b 外部講師や学内教員との論議を通して、研究内容の改善が行える環境を整備する。</p> <p>a 研究指導教員の指導の下、ティーチング・アシスタントとして能力を発揮できる環境を整備する。</p> <p>b 受託研究等の外部資金を活用したリサーチ・アシスタント制度の導入を検討する。</p> <p>a 他大学や企業等との連携を推進し、最先端の研究に参画できる環境を整備する。</p>

公立大学法人前橋工科大学中期目標		公立大学法人前橋工科大学中期計画		平成25年度年度計画	
	④大学院の教育においては、社会及び経済の動向並びに時代の要請に対応して学部と大学院の入学時からの一貫した教育システムを構築する。	④-1 学部から大学院博士前期課程までの6年間を一貫して学習しうる教育プログラムを整備する。		a 各学科(専攻)を中心に、学部から大学院博士前期課程までの6年間の教育プログラムを検討する。	
		④-2 博士前期課程入学時から博士後期課程修了までの5年間を通じた研究計画を可能とするシステムを構築する。		a 環境・生命工学専攻会議を中心に博士前期課程及び博士後期課程を通じた研究モデルを検討する。	
		④-3 大学院における教育システムが社会及び経済の動向並びに時代の要請に対応しているかについて、各専攻及び評価・改善委員会において博士後期課程の標準修業年限である3年ごとに検証する。		a 大学院における教育カリキュラムと研究課題が、社会及び経済の動向並びに時代の要請に対応しているかについて、地元産業界等と協力してアンケートを実施する。	
		【担当者(計画遂行責任者):副学長(研究・地域貢献担当)、評価・改善委員会、学務課教務係】			
(2)	研究に関する目標	(2)	研究に関する目標を達成するための措置	(2)	研究に関する目標を達成するための措置
	①基礎から応用に至る幅広い研究を展開し、その成果を社会に還元することにより、持続可能な社会の発展に貢献する。	①-1 環境共生技術及び生命工学技術に係る教育研究を深めることにより、持続可能な社会の発展に貢献する。		a 分野横断型工学研究シンポジウムを軌道に乗せ、広く、地元産業界にも参加を呼びかける。	
		①-2 民間企業、他大学、各種研究機関等との共同研究に積極的に取り組む。		a 地域連携推進センターを中心に、企業との連携を深め、共同研究の充実を図る。	
		【担当者(計画遂行責任者):副学長(研究・地域貢献担当)、地域連携推進センター、学務課教務係】		b 教員の研究分野、研究業績と共に学内のノウハウやアイデア(シーズ)等をホームページ等を通じて公表し、企業等に対し、本学の情報を発信する。	
	②従来の分野別や個別の研究のみにとどまらず、学内共同研究の促進を図る。	②-1 学科を超えた工学研究を進めるために、学科間の協力による研究に重点研究費を配分する。		a 学科間の協力による研究に重点研究費を配分するために、教員研究費規程を見直す。	
		②-2 大学院工学研究科環境・生命工学専攻(博士後期課程)の分野横断型工学研究シンポジウムの開催を軌道に乗せ、学内共同研究のノウハウやアイデアを発掘する。		b 環境系、生命系とで学科を超えた共同研究を図る。	
		②-3 学内に学科や専攻の枠を超えた教員の研究チームを構築し、学内共同研究を進める。		a 分野横断型工学研究シンポジウムなどを通じ、学内に埋もれている技術や研究能力等の洗出しを行う。	
		【担当者(計画遂行責任者):副学長(研究・地域貢献担当)、学務課教務係】		b 分野横断型工学研究シンポジウムを全学的な事業として実施する。	
	③各種研究の成果等の情報を集積し、それを積極的に学外に発信する。	③-1 学位論文の概要、審査概要等を大学のホームページで公表する。		a 研究委員会を中心に、教員の研究テーマについて整理し、学際領域の研究テーマの可能性を探る。	
		③-2 教員の学術団体の論文集への掲載件数を増やすとともに、その掲載状況について大学のホームページで公開する。			
		【担当者(計画遂行責任者):副学長(研究・地域貢献担当)、学務課教務係】		a 平成25年度に学位を授与した学位論文の概要、審査概要等を大学のホームページで公表する。	
				a 教員の論文発表等について、教員評価に反映する。	
				b 論文発表等の実績があり、かつ、教育及び研究に意欲のある教員を積極的に採用する。	
				c 教員の論文誌等における論文掲載状況を把握し、大学のホームページで公開する。	

公立大学法人前橋工科大学中期目標		公立大学法人前橋工科大学中期計画		平成25年度年度計画											
④産官学連携による学内外との組織的研究を積極的に実施する。	④-1 公募型共同課題研究プロジェクトを推進し、その成果を活用する。 ④-2 産官学連携による学内外との組織的研究の成果について相互に利用するネットワークを構築し、活用する。 ④-3 群馬大学等の他大学及び研究機関、民間企業、前橋市及び群馬県等の行政機関、前橋商工会議所等の各種団体との連携を強化する。 【担当者(計画遂行責任者):副学長(研究・地域貢献担当)、地域連携推進センター】	a 引き続き、前橋市及び地域企業と協力し、公募型共同課題研究プロジェクトを実施する。 a 地域連携推進センターを中心として、産学官ネットワークのあり方について検討する。 a 群馬大学、前橋市、群馬県、前橋商工会議所等との連携に係る意見交換を進める。													
						⑤研究活動の向上を目指し、科学研究費補助金等の競争的資金の獲得拡充を図る。	⑤-1 外部資金の獲得に全学で取り組み、文部科学省科学研究費補助金等の確保に努める。 ⑤-2 教員研究費の配分については、外部資金の確保努力等を考慮し、新たな配分方法に改善する。 ⑤-3 科学研究費補助金等の外部資金申請件数等を教員評価に反映する。 【担当者(計画遂行責任者):副学長(研究・地域貢献担当)、学務課教務係】	a 外部講師による科学研究費補助金応募説明会を開催する。 b 教員の科学研究費補助金申請を支援するための方策を検討する。 a 外部資金の申請件数等を反映させた研究費の配分方法等について研究委員会で検討する。 a 科学研究費補助金等の外部資金申請件数を評価に反映した教員評価を平成25年度に試行実施する。							
											(3) 地域貢献に関する目標	(3) 地域貢献に関する目標を達成するための措置	(3) 地域貢献に関する目標を達成するための措置		
②地域のシンクタンクとして「地域連携推進センター」の役割を高める。	②-1 地域連携推進センターがシンクタンク機能をもてるように、民間企業との共同研究成果等を蓄積して、地元企業の問題解決に応えられるようにする。 ②-2 前橋市をはじめとした地方公共団体や国等の政策形成へ積極的に参画するとともに、地域のまちづくりや民間企業に対するアドバイザー機能を強化する。 【担当者(計画遂行責任者):副学長(研究・地域貢献担当)、地域連携推進センター】	a 地域のニーズを調査、分析し、その結果を地域連携推進センターの機能強化に活用する。 a 公立大学としての機能や価値を地域での活動に活用する。 b 国や地方公共団体の審議会等に積極的に参画する。 c 地域課題の解決に貢献する。 d 地域連携推進センターのPRを図る。													
					③地方自治体等が行う各種事業に、大学として積極的に参加することにより、学生の地域貢献に関する意欲を喚起する。	③-1 前橋市や群馬県が行う事業に、教職員も学生も積極的に参加・協力し、地域社会の一員としての責任を果たし、地域貢献する。 【担当者(計画遂行責任者):学生部長、キャリアセンター、学務課学生係】	a 前橋市の「やる気の木」事業や群馬県の「インターカレッジ」等に大学として積極的に参加する。 b キャリア支援教育の中で、学生が地域貢献活動に参加できる機会を提供する。								

公立大学法人前橋工科大学中期目標		公立大学法人前橋工科大学中期計画		平成25年度年度計画	
(4)	国際交流に関する目標	(4)	国際交流に関する目標を達成するための措置	(4)	国際交流に関する目標を達成するための措置
	①研究と教育における多様な価値観を共有し、国際的な貢献を果たすため、世界各国の大学、研究機関等との教員相互の連携と交流をさらに深めていく。		①-1 国際交流は、教員個人の研究交流の中から、必要なものを大学の事業とし、積極的に取り組む。既に連携している北京工業大学と平成24年度に協定を締結した吉林建筑工程学院建学院との交流は、相互交流を持続する。 ①-2 教員の海外研修事業を強化する。 【担当者(計画遂行責任者):地域連携推進センター、学務課教務係】		a 教員個人の国際交流に関する情報を収集し、大学としての交流事業化の可能性について検討する。 a 重点研究費を機動的に活用して、教員の海外研修の充実を図る。 b タイ国カセサート大学に教員を派遣する。
	②国際交流のさらなる活性化のために、従来から実施してきた中国からの留学生の受入れを継続的に行うとともに、他のアジア諸国からの留学生も積極的に受け入れる。		②-1 既に交流のある北京工業大学との間では今後も継続して交換留学を実施していくとともに、教員間での共同研究が開始されている吉林建筑工程学院建学院との間で学生の交換留学の制度化を図る。 ②-2 学生の交換留学について、アジア地域での新たな交流大学を開拓するとともに、留学生の受入れ方策について、検討を行う。 【担当者(計画遂行責任者):地域連携推進センター、学務課学生係】		a 北京工業大学に本学大学院生2名を派遣し、北京工業大学から2名を受け入れる。 b 吉林建筑工程学院建学院との間で学生の交流を具体化するための協議を行う。 a アジアの大学との交換留学について、タイのカセサート大学との間で条件に係る協議を行う。
	③異文化との交流を通じて国際感覚やコミュニケーション能力の向上を図るため、学生を積極的に海外の大学や研究機関等に派遣する。		③-1 海外での語学研修のため学生を引き続き派遣する。(モナッシュ大学付属語学学校(オーストラリア)) ③-2 優秀学生の海外留学について後援会・同窓会の支援が得られるよう協議を行う。 【担当者(計画遂行責任者):学生部長、学務課学生係】		a モナッシュ大学付属語学学校(オーストラリア)へ学生4人を派遣する。 a 優秀学生の海外留学制度等を設けるため、後援会及び同窓会と検討する。
(5)	教員の資質向上に関する目標	(5)	教員の資質向上に関する目標を達成するための措置	(5)	教員の資質向上に関する目標を達成するための措置
	①教員が高い意識を持って、教育や研究だけでなく地域貢献にも積極的に取り組む体制を構築する。		①-1 総合的な教員評価システムをきちんと整備し、その中で、教職員の地域貢献についても評価対象とする。 【担当者(計画遂行責任者):副学長、地域連携推進センター】		a 教員による地域貢献の重要性について周知するとともに、どのような地域への貢献事例があるか照会を行う。
	②教員の採用については、公募制の厳正な運用により、大学にとって有用な人材の確保及び育成を図る。		②-1 教員採用については公募制により広く人材を求め、本学の学習教育目標とそれに沿った教育実践が実行できる教員を採用する。 【担当者(計画遂行責任者):副学長、総務課総務企画係】		a 人事委員会において、大学が求める「人材像」を検討し、教育研究審議会や理事会の審議を経て明文化する。
	③教員の教育力の向上を目的とした研修等の取組を、組織をあげて積極的に行う。		③-1 毎年度、学長を中心に学内において、教員の教育力向上のための研修計画を立て、これに基づき教員相互による授業参観や各種の研修会等を実施する。 【担当者(計画遂行責任者):学務課教務係】		a 教育力向上のための年間研修計画を立案し、実行する。 b 教員相互による授業参観の実施方法を全教員が他の教員が行っている授業を参観できるよう見直す。

公立大学法人前橋工科大学中期目標		公立大学法人前橋工科大学中期計画		平成25年度年度計画	
	④教員の人事評価制度については、研究の成果や実績だけでなく、教育や地域貢献活動における業績等の幅広い活動実績を総合的に評価できる制度を新たに構築する。		④-1 教員の教育及び研究活動について、新たに総合的教員評価システムを導入する。新たなシステムは、自己評価を基礎に、学生による事業評価、学科の運営管理に関する貢献度、民間企業との共同研究等地域社会への貢献度等を評価項目に取り入れたものとし、平成25年度に試行を行い、26年度から本格導入する。 ④-2 新任の助教及び助手に対する任期制の導入の有無及び導入する場合の方法を平成27年度までに検討する。 【担当者(計画遂行責任者):副学長、総務課総務企画係、学務課教務係】		a 平成25年度に教員評価制度を試行する。 b 人事委員会において、教員評価の試行結果を検証し、本格導入に向けて改善する。
4	業務運営の改善及び効率化に関する目標	2	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	2	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置
	①法人の経営及び運営の責任者である理事長と、大学の教育研究の責任者である学長がそれぞれのリーダーシップを発揮し、法人の円滑な経営と大学の教育研究の発展に努める。		①-1 法人化の趣旨がきちんと定着するよう、理事長と学長は協議し、学内のコンセンサスの形成につとめ、効率的で公正な大学運営に当たる。 【担当者(計画遂行責任者):総務課総務企画係】		a 中期計画で定めた担当区分に応じて、理事長・学長がリーダーシップを発揮し、事業実施等を行う。 b 理事長及び学長の職務について評価委員会の評価を受ける。
	②教職員一人一人が、組織における役割を理解し、業務運営の改善及び効率化に向けて取り組む。		②-1 教職員を対象とした業務運営に関する研修を毎年度開催し、組織に係る役割や組織におけるルールの周知徹底を図る。 ②-2 グループウェアを活用し、業務に係る情報の共有化を推進する。 ②-3 公立大学法人化により、大学が自主的かつ自律的な活動を行わなければならないことを全ての教職員が自覚し、各自が年間目標を立て、自己管理する。 【担当者(計画遂行責任者):副学長、総務課総務企画係】		a 全教職員を対象とした研修等の機会を設け、業務運営の改善や効率化に係る意識改善を図る。 a 理事長の法人の経営方針や学長の大学の運営方針について、グループウェアで教職員に公開し、情報共有を図る。 a 教員の評価に当たっては、各自が自主的に目標を立て、自己評価を行い、これをもとに評価を行う。 b 事務職員については、前橋市の人事評価制度に準じて人事評価を行う。
	③簡素で効率的な業務運営が図れる組織体制を構築するとともに、意思決定過程を明確化し、より開かれた組織運営を目指す。		③-1 制度上の要求やコンセンサスの形成のために、学外の有識者や多くの教職員の参加を求めて、理事会をはじめ、様々な審議会や委員会を設置・運営しなければならないが、このことが効率的な大学運営を妨げたり、迅速な意思決定を阻害したりすることのないよう、常に、構成員の意識改革と運営体制の改善につとめる。 ③-2 理事会等各組織の所管事項を組織規程等で明確化する。 ③-3 理事会、経営審議会、教育研究審議会、教授会及び工学研究科会議の会議内容については、グループウェアを活用し、会議結果を教職員に公表する。 【担当者(計画遂行責任者):総務課総務企画係】		a 教育研究審議会、教授会及び工学研究科会議から付託された事項を検討するための常置委員会の組織を置き、教育研究審議会等の審議が円滑に行われるようにする。 a 規程集を全教職員に配布し、各組織の所管範囲について共通認識を図る。 a 理事会、経営審議会、教育研究審議会、教授会及び工学研究科会議の会議録を一定期間グループウェアに登載し、教職員に周知を図る。
	④教育・研究上の基本組織は、社会情勢の変化や時代のニーズに柔軟に対応するため、必要に応じて改組及び改編を検討する。		④-1 大学の自己点検評価を毎年度1回行い、社会情勢の変化や時代のニーズに対応できているかの視点により課題を洗い出し、必要に応じて学科の改組又は改編を含めた対応策を評価・改善委員会等で検討する。 ④-2 ④-1の検討結果については、必要に応じて法人の審議機関に諮り、実行する。 【担当者(計画遂行責任者):副学長、総務課総務企画係、学務課教務係】		a 大学認証評価に即した評価項目の洗い出しを評価・改善委員会において行う。 b 評価・改善委員会を中心に、自己点検評価を実施する。 a 自己点検評価の結果に基づき、改善項目を洗い出し、必要な改善を行う。 b 平成25年度の自己点検評価の結果を法人の審議機関に報告する。

公立大学法人前橋工科大学中期目標		公立大学法人前橋工科大学中期計画		平成25年度年度計画	
	⑤教職員数について、中長期的な視点で人員計画を策定し、業務運営を的確かつ効率的に行うために必要な体制を整える。		⑤-1 法人に、人員計画や人事方針を立案するための人事委員会を置く。 ⑤-2 事務職員については、市職員の派遣を削減するため、事務の合理化による必要人員の削減、業務の外部委託等を進める。 【担当者(計画遂行責任者):総務課総務企画係】		a 人事委員会を設置し、長期的な人員計画案及び平成26年度の教職員の採用計画について検討する。 a OJTを活用しながら、事務職員の能力向上を図る。 b 民間業務委託に適する業務の精査を行う。
5	財務内容の改善に関する目標	3	財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	3	財務内容の改善に関する目標を達成するための措置
	①財務情報の公開等により、財務内容の透明化及び効率的な経営を図り、法人としての経営基盤を強化する。		①-1 地方独立行政法人会計基準にのっとり財務内容を透明化し、毎年度、財務諸表等を公表する。 ①-2 業務内容の変化や業務量の変動に応じて、事務組織及び事務処理方法を常に、柔軟に、改善する。 【担当者(計画遂行責任者):総務課総務企画係、総務課財務係】		a 公認会計士への指導を仰ぎながら、財務事務を正確に執行する。 a 業務内容の変化や業務量の変動に対応できるよう、必要に応じて課や係を超えた応援体制をとる。 b 時間外労働の実態などを反映した組織改編や人員配置を行う。
	②自主的かつ自律的な大学運営を行うため、外部資金及び競争的資金の積極的な導入を図り、大学運営に必要な財源の確保に努める。		②-1 競争的資金に関する情報を幅広く収集し、全教員に対して提供する。 ②-2 地域の研究ニーズの情報収集及び当該情報の教員への周知により、受託研究の拡充を図る。 【担当者(計画遂行責任者):地域連携推進センター、学務課教務係】		a 科学研究費補助金応募説明会を実施する。 b 競争的資金に関する情報について、学内のグループウェアや研究委員会を通じて情報提供をする。 a 地域連携推進センターを中心とした産官学との連携により、地域ニーズに係る情報収集を行う。 b 本学教員の研究業績等の情報を地元産業界等に発信し、受託研究に結びつける。
	③大学の管理運営業務の効率化や、人員配置の適正化等により、管理的経費の抑制を図る。		③-1 人員計画に基づく適正な人員配置、業務の外部委託や人材派遣の活用、入札の公正で効率的な実施、省エネや消耗品の節約等、あらゆる方途を駆使して、管理的経費の節減と効率的で公正な執行に努める。 【担当者(計画遂行責任者):総務課総務企画係、総務課財務係】		a 人事委員会において、教員や事務職員の定員を定める。 b 職員が行っている業務で外部委託の導入が可能な業務を洗い出し、委託化の課題と費用比較などの検討を行なう。 c 物品購入事務について、前橋市をはじめとした各自治体や先行の公立大学法人の事例を参考に、安価で質のいい物を購入できるよう選定業者、発注方法、契約年数の見直し等を検討する。 d 法人化のメリットを生かし、前橋市では行えなかった種類の複数年契約を積極的に導入することにより、業務の効率化を図る。

公立大学法人前橋工科大学中期目標		公立大学法人前橋工科大学中期計画		平成25年度年度計画	
6	自己点検・評価及び情報公開に関する目標	4	自己点検・評価及び情報公開に関する目標を達成するための措置	4	自己点検・評価及び情報公開に関する目標を達成するための措置
	①自己点検・評価の実施に加え、第三者評価を定期的に受け、これらの評価結果を公表するとともに、評価結果を踏まえ、大学運営の改善に取り組む。		①-1 認証評価機関による評価を平成28年度までに受け、その結果を大学のホームページを通じて公表するとともに、次期中期目標、中期計画に反映させる。 ①-2 各事業年度における業務の実績に係る評価委員会の評価結果等を大学のホームページ等を通じて公表するとともに、その結果を翌々事業年度の事業計画に反映させる。 【担当者(計画遂行責任者):総務課総務企画係】		a 次期認証評価に向け、前回の評価内容について平成24年度中に行った検証及び分析をもとに、改善を進める。
	②市民や地域社会に対する説明責任を果たすため、大学の研究成果や社会活動状況をはじめ、法人の組織及び運営等の各種情報を積極的に公開する。		②-1 教員の研究分野、研究業績等を大学のホームページ等を通じて公表する。 ②-2 地域連携推進センターの事業実績について、大学のホームページ等を通じて公表する。 【担当者(計画遂行責任者):地域連携推進センター、学務課教務係】		a 教員の研究分野、研究業績等を大学のホームページを通じて公表し、情報を年に1度以上更新する。 b 教員の研究に係る情報を広く知ってもらうための方法を検討する。 a 地域連携推進センターの行った事業の概要について、できる限り早くホームページで公表する。
7	その他業務運営に関する重要な目標	5	その他業務運営に関する重要な目標を達成するための措置	5	その他業務運営に関する重要な目標を達成するための措置
	①教育研究成果や社会活動状況等を積極的に発信し、大学のブランド力を強化する。		①-1 大学及び各教員の教育研究業績及び地域貢献等に関する基礎的な情報を収集及び整理し、大学のブランド力強化に向けての戦略を策定する。 ①-2 教員の研究成果及び地域貢献活動並びに大学の各種事業等についてホームページ等により、積極的に情報を発信する。 【担当者(計画遂行責任者):副学長、学生部長、総務課総務企画係、学務課教務係】		a 現在は把握できていないものも含め、大学の経営戦略を立案するに当たり必要な統計データが何なのかを総務課総務企画係で指示し、各所管の部署においてデータを整理する。 b 広報委員会を中心に、大学のブランド力の向上について検討を進める。 a ホームページでの公表のほか、広報まえばしや新聞媒体などの活用について検討する。
	②工学研究科の入学者を確保するとともに質を向上させ、大学院における教育及び研究を充実させる。		②-1 博士前期課程においては、「大学院教育に関する目標を達成するための措置(1-(1)-イ)」を確実に実施し、入学者の確保を図る。 ②-2 博士後期課程においては、「大学院教育に関する目標を達成するための措置(1-(1)-イ)」の確実な実施に加え、内部進学を拡大しうる指導体制及び社会人が履修しやすい制度の構築により、入学者の確保を図る。 ②-3 ティーチング・アシスタント及びリサーチ・アシスタントの制度等を充実させ、大学院の学生の経済的支援の体制を確立する。 【担当者(計画遂行責任者):副学長(研究・地域貢献担当)、専攻主任、学務課教務係、学務課学生係】		a 平成24年度中に検討を行った博士前期課程の定員充足のための改善策を工学研究会議及び各専攻において実行する。 a 博士後期課程においては、平成25年度から始める修業年限の短縮制度を実施する。 b 博士後期課程においては、平成26年度入試に向けて、長期履修制度の導入についても検討する。 a 博士後期課程の学生にもティーチング・アシスタント制度を導入することを検討する。

公立大学法人前橋工科大学中期目標	公立大学法人前橋工科大学中期計画	平成25年度年度計画
<p>③学生の安全確保のため、施設の維持管理を適切に行うとともに、災害発生時や大学の知的財産流出等の恐れが生じた際の危機管理体制を確立し、迅速かつ的確な対応が統一に行える体制を整える。</p>	<p>③-1 施設及び設備の維持管理を適切に行うために施設維持管理マニュアルを策定する。</p> <p>③-2 各分野における危機管理マニュアルを策定する。</p> <p>③-3 情報セキュリティポリシーを策定し、全教職員に周知徹底する。</p> <p>③-4 災害発生時の緊急連絡網を整備する。</p> <p>③-5 法令及び法人規程に基づいた労働環境の整備や改善を行う。</p> <p>③-6 避難訓練の実施、学内危険個所の洗い出し、複数の避難経路の確保等を行う。</p> <p>【担当者(計画遂行責任者):総務課総務企画係、学務課学生係】</p>	<p>a 施設管理マニュアルを作成する。</p> <p>b 事務職員及び関係する教員の施設管理研修を実施するなど、情報の共有を図る。</p> <p>a 危機管理規程に基づいた危機管理マニュアルを作成し、教職員に周知徹底する。</p> <p>a 情報セキュリティ研修等を実施する。</p> <p>b 情報セキュリティポリシーに基づいて、教職員の危機管理意識を徹底する。</p> <p>a 各学科等も含め緊急連絡網を整備する。</p> <p>a 産業医による職場巡視を定期的に行う。</p> <p>a 消防避難訓練を実施する。</p>
<p>④大学の施設及び設備については、学生の学ぶ環境を向上させるため、老朽化等に対応した改修や整備を行う。</p>	<p>④-1 大学の施設については、耐震診断等各種の点検を行い、この結果に基づく施設保全計画及び施設整備計画を前橋市と協同で策定する。</p> <p>④-2 設備については常に使用目的が達せられるよう、適切に管理する。</p> <p>【担当者(計画遂行責任者):総務課総務企画係】</p>	<p>a 前橋市と連携して、施設の現況を確認する。</p> <p>b 市の行政管理課と協力し、施設整備マスタープランを検討する。</p> <p>a 老朽化等の調査を行い、必要な改修等を実施する。</p>
<p>⑤大学におけるコンプライアンス(法令遵守)を推進し、不祥事や事故の防止に努める。</p>	<p>⑤-1 不正行為や事故を組織的に防ぐためのマニュアルである「コンプライアンス行動指針」の徹底のために、毎年度全教職員を対象とした研修会を実施するとともに、行動指針の見直しを常時行う。</p> <p>⑤-2 不正行為や反社会的行為が発生した場合は、組織的な検証を行い、検証結果を公表する。</p> <p>⑤-3 不正行為や反社会的行為を行った教職員については、厳正な処分を行うとともに、必要な場合は告訴・告発等、法律に基づく対応をきちんと行う。</p> <p>【担当者(計画遂行責任者):総務課総務企画係】</p>	<p>a 全教職員を対象としたコンプライアンス研修を実施する。</p> <p>a 入試業務をはじめとしたマニュアルを整備する。</p> <p>b マニュアルについては全学で共通理解を深める。</p> <p>c 学生にはコンプライアンスについて入学時ガイダンスで徹底を図る。</p> <p>a 不祥事が発生した際には、組織的に対応できるように組織を整備する。</p> <p>b 不祥事については、公表することにより早期の信頼回復を目指す。</p>
<p>⑥大学として社会的な責任を果たすため、人権の尊重や男女共同参画の推進に取り組む。</p>	<p>⑥-1 全教職員を対象とした研修会を毎年度実施することにより、ハラスメントを防止する。</p> <p>⑥-2 ハラスメントの相談体制を確立し、学生及び教職員に周知する。</p> <p>⑥-3 新任教員の公募に当たっては、女性からの応募が増えるよう、周知方法等にも配慮する。</p> <p>【担当者(計画遂行責任者):総務課総務企画係】</p>	<p>a コンプライアンス研修において、ハラスメント防止のための研修を併せて行う。</p> <p>b 相手の身になって考え、行動することを徹底する。</p> <p>a 学内外におけるハラスメントの相談窓口を設置し、周知を行う。</p> <p>a 新任教員の公募の周知方法の多様化を図る。</p> <p>b 昇任に当たっては男女差のないようにする。</p>

公立大学法人前橋工科大学中期目標	公立大学法人前橋工科大学中期計画	平成25年度年度計画
⑦環境を守ることを大学の責務として、環境に配慮した大学の維持管理を行い、環境保全に努める。	⑦-1 物品の購入に当たっては、グリーン購入法の適合商品等の環境に配慮した商品を優先して購入する。	a 事務用消耗品についてはグリーン購入法適合商品の購入率95%を目指す。
	⑦-2 節電・節水に全学をあげて取り組む。	a 節電・節水について周知を徹底する。 b 省エネルギーについて、全学での推進体制を構築する。
	⑦-3 ガソリンの消費量を減らすなど、CO2の削減に全学的に取り組む。	a CO2削減のための具体的に全学で取り組む行動策について検討を行う。
	【担当者(計画遂行責任者):総務課総務企画係、総務課財務係】	